

会 議 等 結 果 報 告 書			
会議区分	会 議 ・ 打 合 せ ・ 協 議	文書番号	186
		決裁期日	平成23年11月29日
名 称	住民会長との町政懇談会(平成23年度第2回)		
日 時	平成23年11月15日(火) 13時30分～15時33分		
場 所	消防大会議室		
出席者	住民会長24名(別紙) 理事者：向山町長、田浦副町長 課長職：田中総務課長他13名(別紙) 説明員：保健福祉課福祉対策班 真鍋主幹 事務局：町民生活課自治推進班 吉岡主幹		
内 容	<p>(司会)田浦副町長</p> <p>あいさつ(向山町長)</p> <p>平成23年は自然災害に大きく影響を受ける年となった。3月には東日本大震災に見舞われ、国中が大変な状況を迎えた中で復興に向けて国を挙げて取り組みを進めている。上富良野町においても自衛隊の皆さん方の災害支援を始め、消防、ボランティア、役場職員も支援をさせていただいた。</p> <p>また、6月から4度にわたり集中豪雨に見舞われ、被災された方も多数おられる。町としても災害に強いまちづくりをしっかりと進めなければならないと痛感したところである。</p> <p>町として平成24年度の予算編成作業に着手しており、こういった自然事象の変化や震災以降の経済の状況等もしっかりと見極めた中で、作業を進めていきたい。こういう機会を通じ、皆さん方から意見をいただき、ともに協働のまちづくりのために歩みを進めてまいりたいと考えている。 (13:37)</p> <p>《議事》</p> <p>議題1 上富良野町定住移住促進計画について(説明者：総務課長)</p> <p>町では定住移住促進計画を3月に立て、4月から取り組みを実施している。今回の計画には、すでに上富良野町に住んでいる方に少しでも上富良野町に長く住んでもらい、町外から移住者に来ていただくことで、人口減少を食い止めるため、基本方針に4つの柱を立てている。10月4日に上富良野町定住移住促進連絡協議会を設立した。10の関係機関が定住と移住のことを考えながら、やれるところから取り組みを進めていく。</p> <p>JTBに委託し、町外の方が上富良野町をどのように見ているかというアンケート</p>		

トや上富良野町に過去に移住してきた方のアンケート調査を実施している。また、各住民会長に移住者の方の情報をいただくことでご協力いただいたことにお礼を申し上げる。

(質疑)

里仁住民会：住民会長に依頼した移住者の調査の結果は教えていただけるのか。また、定住移住促進連絡協議会にペンションや民宿の方も入り、そういう施設に泊まっていたら、上富良野町の良さを話すことができ、勇気づけることにもなる。空き家や土地の情報、職についてまとめたものを定住したい方に提供すれば安心して来られると思う。

企業誘致についても、優良企業で雇用も促進できるような場所が上富良野町に何か所かあればいい。また、誘致できるような場所を教えていただければ企業側も誘致する話に持って行けるかと思うので、お願いしたい。

総務課長：この協議会とペンション、民宿をやっている方、あるいは移住してきた方々、観光ボランティアの団体、農協や商工会の青年部などと意見交換するようにしたい。

企業誘致については、移住してくる人もそうだが、町内の若い方も雇用先がなければ、上富良野町に定住できないので、企業誘致も含めて、雇用確保できるような企業、あるいは農業も含めてそのようなことを位置づけたところである。企業誘致が可能な町有地の面積は即答できないが、ご意見を参考にさせていただきたい。

東明住民会：旭町4丁目の教員住宅は、住宅の間隔が狭いので縦線のみ除雪をお願いしているが、不十分なときもあるためしっかりやってもらいたい。

もう一つ、定住移住促進住宅は、車を置きっ放し、草も刈っていない。地域の住民もいるので、後で苦情がないようにしていただきたい。人口が増えることは大賛成なので、トラブルがないように配慮しながら実施していただきたい。

副町長：承知いたしました。

江幌住民会：江幌地域には特認校があり、年に3～4件学校を見学に来る家庭がある。学校の内容や環境の次に移住環境だと思う。私も地域に空き家がないのか相談されたこともあるが、江幌の教員住宅が空いていると思うので、学校と話し合っ使える環境を作ってほしい。

副町長：十分検討させていただきたい。

議題2 富良野地区合同ワークショップについて(説明者：総務課長)

東京大学の北海道演習林が主催で、富良野沿線の持ち回りで実施している。テーマに入っているエコ、グリーン、アグロとは、農山村景観や自然環境、文化、食、人々の交流など人々の余暇活動を指しており、ツーリズムとは、滞在型の旅行というイメージがある。富良野管内においては自然環境に優れているので、そういうものと地域活性化をテーマにワークショップが開かれる。ぜひ参加していただければと思っている。

(質疑なし)

(14:06)

議題3 高齢者支援対策について(説明者：保健福祉課長)

- ・ 民生委員が高齢者の実態調査を行い、災害に備えて自分で避難できるかどうか、避難できない方については支援を望むかどうか、各住民会・自主防災組織に情報提供していいかという調査を実施した。町全体で330名ほどが支援を希望しており、情報の登録、整理を終えた。各住民会・自主防災組織から要援護者の情報請求があれば、同意を得た方々の情報を出す用意が整っている。住民会・自主防災組織で各項目を埋めていただき、支援計画ができれば、町に提出いただき、保健福祉課と総務課防災担当、住民会・自主防災組織が

各1部ずつ保管し、万一の場合にはこの支援計画の基に避難支援する。実際に各住民会で避難支援計画を立てる際には、住民会単位になると大人数になるため、隣近所や民生児童委員、各住民会の福祉推進員や町内会の福祉係のご支援、ご協力がなければ難しいのではないかと考えている。

- ・ 総務課防災担当も各住民会に自主防災組織の立ち上げを推進しており、マップまで作成し、誰が災害時にいて、誰が避難支援するところまでやっていただくと大変ありがたい。
- ・ 障がい者についても、引き続き手挙げ方式で災害時の避難支援を受けたい方は、災害時要援護者登録申請書もある。地域で避難支援計画を立てる中で高齢者以外でも登録をという情報があれば、申請していただく準備を進めている。
- ・ 徘徊高齢者等検索ネットワークは、体制を整え、認知症のある高齢者で徘徊する可能性のある28名の方が現在登録されている。極力登録いただき、その方の最近の写真も併せて添付して登録する形をとる。搜索に当たり、通報、情報があれば防災無線や町と消防、警察で一体的に搜索をする。地域の皆さん方には町内会、住民会でできる限り搜索態勢を取っていただき、福祉係、福祉推進委員と連携しながら早めの搜索、発見、救出という形に結び付けたい。

登録は、身体的特徴やこれまでの徘徊の状況、徘徊しそうな場所の情報をご家族から情報提供いただき、登録している。防災無線で氏名を公表したくない方もいるが、搜索する際に氏名があるのとないのでは違うので、家族の理解を得ていきたい。地域の中でもご協力いただきたい。

(質疑)

旭住民会：災害時要援護者は、事前非難ということになっている。災害時要援護者は330名という相当な数で、構成は保健福祉課と防災担当の2つという形のようなのだが、洞爺湖町では民生委員の代表や社協、警察、保健師、防災担当などというように網羅されている。そこで、ただ同意したから提供するだけでなく、判定と審議をしっかりとやり、精査する必要がある。

もう1つ、災害時要援護者避難所が必要、旭住民会では町内の避難者が決まれば、町内会で避難させ、女性で構成されるきずな会で炊出しをし、避難者の面倒も見てもらう。また、一般の避難者についても地域ごとに避難所内の区画を決めていただければ住民会や町内会が動きやすい。

副町長：支え合う体系はわかっていただけだと思う。掘り下げた意見もあり、ここでは即答できないものもあるが、対象者の選考については担当課長から説明させていただく。

保健福祉課長：実際に災害にあった時に自分で避難できないので、近くの住民の皆さんに避難を手伝っていただくということで登録している。洞爺湖町では判定委員会を持ってそういう方を厳密に決めているが、上富良野町では自分で避難することが難しいので手を差し伸べていただきたいと言われた高齢者の気持ちに配慮ということで、判定をすることは考えてない。

旭住民会：330名の支援を保健福祉課でやれないと思う。町内の人たちは、どこに支援が必要な人がいるか分かっているので、考え直していただきたい。

また、防災ボランティアに支援を要請できないかと思う。

副町長：防災に特化しては、総務課の防災担当課長を含めて地域に入る。いろいろな課題はあると思うが、そういう場でも聞かせていただきたい。

(14:26)

議題4 平成24年度住民自治活動推進交付金について（説明者：町民生活課自治推進班主幹）

例年交付している交付金で、以前7つの項目で交付していたものを一括して自由度の高い交付金としている。9月30日現在で算出しており、このままの金額が来年4月に交付される。

栄町と泉町が大きく変わっているが、栄町第6町内会に住居表示上、泉町の方が多く加入しており、従来は泉町にカウントされていたため、修正させていただいた。栄町住民会長と泉町住民会長にご理解いただき、来年からこういった形に修正させていただく。

（質疑なし）

（14：29）

その他

1 第2回議会報告会（説明者：議会事務局長）

昨年も町内4カ所で開催し、71名のご参加をいただいた。多くの方に参加いただきたい。

（14：31）

意見交換

丘町住民会：洪水になり、東3線道路の排水溝が溢れ、住宅街の方にも流れてきた。住宅街に被害が及ばないようにしていただきたい。また、丘町第3町内会で公園を管理しているが、街灯をLEDに改修したい。

建設水道課長：主に丘町の商工団地に水が流れ込んで、一部床下に水が入り込んだということで、急遽土嚢整備をし、水の流れを変えた。ところが、土嚢を置いても下流の方で新たに発生したということもあり、今回の災害でいろいろな勉強をさせていただいた。我々の経験不足をお詫びする。これを教訓に、今後対応したい。排水設備についても、今回のような雨に施設整備だけで対応することは難しい。災害を軽減するよう住民との共同体制を作っていきたい。

公園の照明は、省エネのためLED化について検討しているが、大きな照度の照明器具は、まだ安定性が確保できなく高価である。状況を見極めながら、できるだけ早い時期に更新をしていきたい。

丘町住民会：土管が小さいため、流れてきたごみが詰まり、排水が悪かった。もう少し太い管に取り替えていただきたい。

副町長：担当課で十分検討する。

住吉住民会：下水道の工事の舗装の後が春先になると段差ができ、土嚢で対応しているところがあるので直していただきたい。

定住移住の関係で、先週の土曜日に移住者のギャザリング（集まり）があり、美瑛から南富良野まで道外から移住した9名の話があった。それを聞くと光通信が入っているか入っていないかを非常に重きを置いている。町の協議会でも同じ話がある。町長から光通信についての話もあったが、道外から来た人は中央との接点は持っていたいということで、東京から南富良野に移住した方は、南富良野に決めた要因は一番に光通信が入っていたということで、住まいよりも大事だと言っていた。何とか早く、やっていただければと思っている。

建設水道課長：道路の段差の関係で、このことについては全面的な改良は難しいため、その度毎に住民からの情報やパトロールで危険箇所と判断するところについては、その都度土嚢などで段差解消をしており、危険な場所を発見いただいたらできるだけ即座に対応したいと思うので、情報提供をお願いしたい。

総務課長：光ケーブルは、近年特に必要な整備という認識は持っている。特に移住の窓口の総務課では、光ケーブルがあるかという問い合わせをいただく。光ケーブルを全戸に引くと10億円くらいの事業費がかかり、国から3分の1の補助、3分の2は町負担となる。

町長は、光ケーブルを活用した防災情報や高齢者情報も一緒に兼ね備えたものにしたいという意向を持っており、国の補助や通信事業者との情報交換を盛んにさせていただいて、一刻も早く整備できるように今後考えていきたい。

里仁住民会：豪雨災害について、今回の大雨も想定外と言われるが、しっかり直していただきたい。里仁地区の河川で、今年の豪雨でオーバーフローし、1軒の家は床下に入るくらいの水があった。現場を見て対応していただきたい。

34号道路の上りは、一時停止があるが、下りにはない。この時期は、美瑛方面からの観光客が多いので一時停止の標識がないと危険だ。

深山峠の駐車帯は以前、走行車線と駐車帯があったが、2年前に歩道を作ったため駐車帯が歩道になった。その道を通る農家の方は、一旦走行車線に出て、左折している。春先から夏にかけて交通量も多く困っているので、早急に対応していただきたい。

ジェットコースターの道は、観光客の往来が多く、農家が通行する際、大変危険だ。スピードを控えめにしよう標識を設置していただきたい。

先般、津市に出向き、津の新しい市長とお会いしてきた。市長は、「津は5年前に2市、6町、2村が合併した。その前に17か所あった姉妹都市がブラジル、中国と上富良野町を残し、廃止した。今後上富良野町との交流を強く深めていきたい。」と申ししていた。

副町長：道路の関係は、現場に足を運び意見を聞かせていただきたい。峠の国道237号の関係は、課題提起されているため、課題として受け止める。

町民生活課長：国道と11線の件と34号はまとめてお話を伺っている。

大町住民会：災害時の避難支援対策について、個別避難支援計画はどこまで町の方で情報提供していただけて、住民会ではどこまで埋めたらいいのか。

保健福祉課長：個別避難支援計画の町が皆さんに提供するのは、氏名、生年月日、電話番号、現住所、世帯状況、担当の民生委員さんである。それ以外の部分は、住民会、自主防災組織の方々に埋めていただきたい。

大町住民会：民生児童委員の方で調査していただいたが、住民会で訪問する際は情報提供していただいたことを言っていたらいいのだろうか。

保健福祉課長：はい結構です。避難支援に同意した方の情報なのでご理解を賜っておきたい。

大町住民会：かみんは避難所になっていないと思うが、ぜひ避難所にしてほしい。

副町長：現在、全体の計画の見直しをしている。前に向けていきたいと思う。

大町住民会：大町1町内会で旧国道の街灯をLEDにしたいという希望を持っている。町はどう考えているのか。

建設水道課長：旧国道のJRの踏切から中学校までの区間については北海道に要望しているが、北海道の財政事情が悪く、整備できる状況にない。中長期的な計画で、北海道は交差点部分を整備できるということなので、残りは、町も加わっていくよう検討を始めていきたい。いつ実施できるかは明確にお話しできないが、具体化に踏み出したことをご理解いただきたい。

北海道は、全路線でLED化又は更新するという方針が固まっていない。北海道がLED化するのであれば、町も統一しなければならないと思う。

旭住民会：見晴らし台公園の山をなくし、駐車場にして、避難所を作っていただきたい。東日本のがれき1万トンを受け入れてはどうか。

副町長：非常にハードルが高い課題だが、よく検討させていただきたい。

本町住民会：今年から公園を各住民会で管理しているが、休日でやっても若い人が出てこない。出るのは65歳以上ばかり。そこで、住民会で管理するのか、町内会が管理するのか、財政が豊かな住民会が高齢者事業団に任せるのか、いい案があればお聞きしたい。

建設水道課長：町としては、住民会の方々に自ら子どもたちが使う緑地や公園を見守りながら整備していただくことが望ましいと思っている。今年は10の住民会で実施していただいているが、それぞれの住民会でやり方が様々、損害賠償のための保険加入も異なるが、それを統一する考えは持っていない。

実際に求める成果が表れれば、当面はそれがいいと思っている。日常的に支障がない限りはしていただき、子どもたちが日頃危険な遊びをしていたら注意するということや周辺から見守っていただく形ができればいい。

東明住民会：町内会役員は1年交代で変わるので、スポーツ推進員や福祉推進員などの改選に合わせて来年、防災担当推進員を設けることを検討していただきたい。

副町長：地域の中で異口同音にそういったことが必要ということであれば、町も積極的にかかわっていききたい。もう少し地域の動きを見て判断したいと思う。

富原住民会：9月の豪雨で富原地域に横断しているホロベツナイ川が氾濫した。河床の整備はどうなっているのか。上流の方に行くと河床に雑木が茂っているので、春先の融雪期が心配だ。

4月から乗り合いタクシーの試験運用をしているが、現状や経過がどうなっているのかお尋ねしたい。

建設水道課長：9月の雨では一部、護岸が壊れるというような部分もあり、北海道の方に強く要望している。原因は、土砂が溜まっていたり、木が生えていたり、川を狭くしている。流木の除去なども要望している。

北海道では管理河川が非常に多く、上富良野地区については各河川とも土砂が溜まっていた木が生えているという状況にあり、計画的に整備していくという答えはいただいている。いつできるかは、予算次第で、順次計画的にやると聞いている。

総務課長：乗り合いタクシーの運行状況は、4月1日から東中、富原、島津、市街地全域で試行運行事業をしている。現在登録者が406人おり、9月末現在で1件当たり乗り合いが1.53人という状況で、極めて順調に推移している。6カ月を過ぎて利用者の方にアンケート調査を実施しており、速報を見ると大変便利になったというご意見も頂いている。試行事業を受けて、来年4月から全町に広げる準備を進めている。決まれば、1月の町政懇談会で詳しく説明したい。

中町住民会：見晴らし台の開発は、当初予算で事業が進まなかったという話を聞いている。地域との説明がうまくいっていないと聞くが、今後どのように進むか聞きたい。

今年の紅葉まつりは見晴らし台公園をメイン会場としてやったが、どう考えているかお聞かせいただきたい。

例年11月から70歳以上の老人が温泉を利用するときに半額にしているが、今年はないのだろうか。

除雪の関係でここ2、3年は苦情も全くないのだが、中町のふれあい通りは間違いなくいつも通りやってくれるのか。

建設水道課長：見晴らし台公園は、当初予算に組んでいるが、整備にあたり国道用地も施工する。当初国道用地の施工は、同意を得られると見込んでいたが、効果とメリットを明確に出すよう言われている。また、地域住民から一部、いろいろな障害が出るということも言われていることを町でも十分承知している。整備後の活用とメリットを検討し、9月議会で予算を補正した。これは住民会の他にも商工会や観光協会、農協のいろいろな活動グループなども含めて利活用の意見を聞きながら、関心がある方に集まっていたき、ワークショップという方式で検討し、2月頃の完成を目指している。その成果を受けて住民の多くの賛同を得て、今年度の予算で着手したい。来年度に予算を送るという選択肢もあるが、今のところ当初予算のまま実行する予定。

ふれあい通りの除排雪は、従来どおり行う。

産業振興課長：十勝岳温泉地区の入浴料半額は、昨年、一昨年と実施していない。ただ、観光客の入り込み数は右肩下がり今年も少ない。冬季の閑散期の温泉の対策ということで、半額を復活させるか協議を進めている最中で、結果についてはまだ出ていない。実施の際はお知らせする。

南町住民会：北24号道路の旧国道東1線から道道旭中線の間歩道がない。3町内の方に調査をしていただき、今年の10月17日の午前6時から18時までの12時間で歩行者が62名、自転車が31名、車両は、213台の通行、この間に自衛隊車両、小型車が21台、大型車が40台の通行があった。車両が最も多い時間帯は朝の7時から8時30分、第5次総合計画の実施施策にしてください、是非歩道設置をお願いしたい。

また合わせて東門付近の交差点に信号機の設置をお願いしたい。

南町には会館がない。20～30年前から要望しているが、公共施設を使えばいいという答えを聞いている。公共施設は、住民会にある会館を使用するようなわけにはいかない。南町も緑町も共用でしらかば会館を使っているが、狭く、複数の行事に使えない。

副町長：会館は、町で具体的に返答できる考え方を持ち合わせていない。ただ、地域のコミュニティーを活性化することは大きなテーマであり、会館の課題が山積しているので、管理の方法を含めてどうするかという議論に着手する。その中で施設のない地区をどうするかも大きなテーマとしてとらえている。

今後、内部協議して、意見をできるだけ反映する形で議論を進めたい。熟度を見て皆さんにお伝えする機会があると思う。

道路の関係についてもご覧のとおり、位置的にも幹線のようになっているので、引き続き大きなテーマだと思う。担当課長から説明する。

建設水道課長：住民会長のお話を聞き、非常に積極的に通行車両数まで計測されたということ聞き、困った問題だと改めて思い知ったところだが、この区間は用地が狭く、歩道をつけるとすれば新たに用地を求める必要がある。国の補助制度も大きく変わりつつあり、少し昔であればいろいろな制度運用を図れば整備できた事情もある。なかなか今後財源を求めて整備するということが難しい状況にあるので、課題とさせていただき、歩行者は、南6条通りを利用いただくか、道路改善案を図れるまではなんらかの危険防止策を奨励するように努めたい。

町民生活課長：信号機の設置は、生活安全推進協議会の中で要望をしたい。

島津住民会：町の基幹産業である農業が壊滅的な被害を被った未曾有の年だと思う。来年以降の再生産を含めながら農業者の養分にも大きく影響するため、懸念に感じている。こういう時こそ町の力を十分発揮していただきたい。来年に向けて、考え方や今年の対応を含めてお聞かせいただきたい。

産業振興課長：昨年、今年と続けての被害と認識している。年度末に向けての資金対応のため、利子補給等の対策を講じようとしている。具体的には進めていないが、方針としてはそういう方向で考えている。

栄町住民会：要望書を作り、3点要望した。ご検討をお願いしたい。（詳細は別紙。）

町長からお礼の挨拶

住民の皆さん方の意識が大きく変わったと今日は心からそういう感じを持った。まず、しっかりと安心・安全に暮らせるまちづくりをしてくれということ、さらには、防災はもちろん、情報インフラも整備が必要ではないか、あるいは交通安全対策、あるいは農業の支援、本当に皆さん方いままでのかつて私が抱いていた住民会の皆さん方が町に対する要望というものを非常にハードルの高い要望が多かった気もあつたのではないかと考えている。

しかし、この懇談会を通じ、皆さん方が協働のまちづくりの意味を理解していただき、自ら自分たちで汗をかいて地域をしっかりと守っていくんだという決意のほどが十分感じ取ることができた。町としても、本当に町のあるべき姿の原点をもう1回しっかりと見つめ直して、そして皆さん方が本当に普通に安心して暮らしていただける環境整備に力を尽くして参りたい。また、別な機会にでもそれぞれ皆さん方が町に対するご要望等あればお寄せいただいて、皆さんと共にまちづくりを進めて参りたいというふうに考えている。今後ともご協力を賜ることと本日ご出席いただいたことにお礼を申し上げ閉会とさせていただきます。

《閉会》 15時33分

今回から各住民会長の机上札を作成し、配置。次回からも配置する。